

ヒドロキシイソキサゾール・メタラキシル M 粉剤 タチガレエースM粉剤	取扱メーカー： 三井アグロ、ホクサン 原体メーカー： 三井アグロ、シンジェンタ
成分： ヒドロキシイソキサゾール〔イソキサゾール系〕…4.0% メタラキシルM〔フェニルアמיד系〕……………0.25%	性状： 類白色粉末45μm以下 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 2成分の共力作用により、苗質強化に加えてムレ苗の発生を長期間にわたり予防する。
- 苗立枯病の防除、ムレ苗防止、そして根の生育促進など健苗づくりの作業がは種前に同時に1剤のできるので省力かつ経済的である。
- 本剤は稲のピシウム菌、フザリウム菌による苗立枯病に対して有効であるが、リゾープス菌には効果は劣るので注意する。
- 根の生育を促進し、移植後に植え傷みや欠株などを起こさないきれいな苗マットができる。また、苗素質の向上によって環境の悪化にも負けにくい強い苗が得られる。
- 苗に対して通常の使い方では薬害の心配はない。
- 肥料やダコニール剤、カスミン粒剤などとの同時近接処理ができる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- タチガレン粉剤の項参照。
- 自然土壌でも人工倍土（粒状及び粉状）でも塩基置換容量の極端に小さい特殊な育苗土壌などでの場合を除き、いずれも標準的な使い方ができる。
- 効果は土壌pHが高めの床土でも認められるが、水稻の育苗には土壌pH5前後が最適である。
- 稲の育苗箱土壌に混和する場合は、なるべくは種直前に土壌混和する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 稲のムレ苗防止には、吸水と蒸散の不均衡によるムレ苗の発生する地域で使用する。
- 稲に使用した場合、草丈の高い品種や、は種量の多い条件では生育後期に苗が伸びすぎることがあるので育苗管理に注意する。
- 適用作物（稲）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 過酸化カルシウム剤に添加して使用する場合は十分混合して種もみに湿粉衣する。また、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を厳守する。

【安全対策上の注意】……………

- 作業後はうがいをするともに洗眼する。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- カブレやすい体質の人は取扱いに十分注意する。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名 又は使用目的	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサゾールを含む農薬の総使用回数	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (ピシウム菌) 苗立枯病 (フザリウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進	育苗箱 (30× 60×3cm, 使用 土壌約5ℓ) 1箱当り6～ 8g	は種前	1回	育苗箱土 壌に均一 に混和	3回以内 (移植前の土 壌混和は1回 以内, 移植前 の土壌灌注は 2回以内)	4回以内 (移植前の土 壌混和は1回 以内, 育苗 箱への灌 注は1回以 内, 本田で は2回以内)
稲 (湛水直播)	根の生育促進に よる苗立の安定	乾もみ重量の 3%			過酸化カル シウム 剤に添加 して種も みに粉衣 する。	1回	3回以内 (種もみへの 処理は1回以 内, 本田で は2回以内)
さとうきび※	根腐病	5kg/10a			植溝土壌 混和		1回

※：同一薬剤名（会社名を除き）であっても登録内容が異なる箇所。使用時には必ずラベルで登録内容を確認すること。